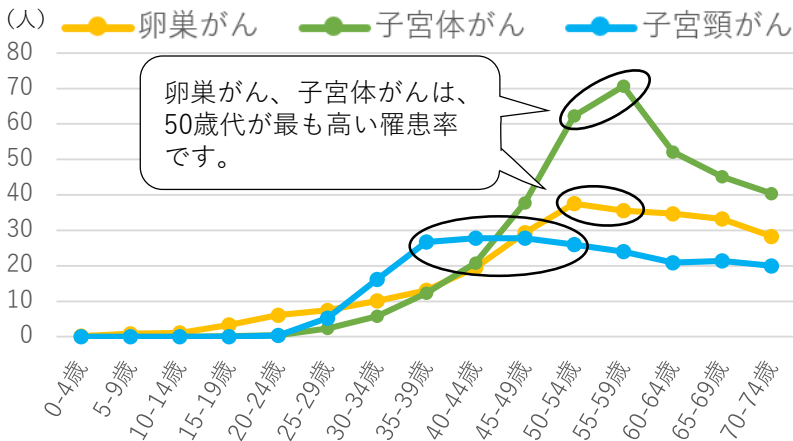




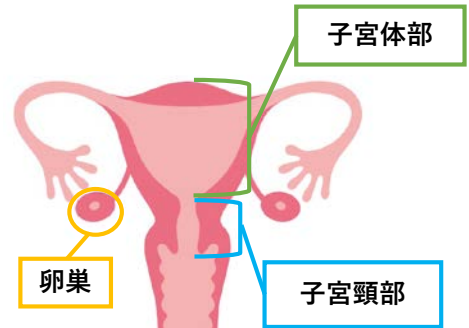
女性ならではの病気

毎年3月1日～3月8日は「女性の健康週間」です。今回は婦人科のガンについてお伝えします。婦人科のガンは若い年齢で発症するものもあり、身近な家族やパートナーにとっても他人事ではありません。男性にもぜひ知っていただきたいお話です。乳ガンについては、[2021年10月の保健師eye's](#)をご覧ください。

■ 全国における婦人科のガンの罹患率 2019年¹⁾：人口10万人当たり、何人が診断されたか



【子宮と卵巣について】



■ 若い世代でもかかりやすい子宮頸がん

子宮頸がんの罹患率は、30歳代後半～50歳代前半がほぼ同率で高くなります。他のガンに比べると罹患率は低ですが、**若い世代でもかかりやすい**ガンです。

■ 子宮頸がんについて

【症状】初期は症状がありません。

ガンが進行すると、月経以外の出血、おりもの変化、月経不順などがあります。

【治療】手術、化学療法、放射線療法があります。

■ がん検診を受けることで、がんの早期発見につながります

子宮頸がんは、定期的ながん検診を受けることが推奨されています。

20歳を過ぎたら、2年に1回受診するようにしましょう。

◎子宮頸がん検診では、子宮頸部表面をブラシで軽くなでて細胞を取ります。

短時間でできる簡単な検査で、痛みはほとんどありません。

市区町村のがん検診は**一部の自己負担**で受けることができます。

お住まいの**市区町村**にご確認ください。

【引用・参考】

1) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録) 全国がん罹患データ (2016年～2019年)

2) 厚生労働省研究班監修 女性の健康推進室 ヘルスケアラボ

(厚生労働科学研究費補助金を受けた研究班が作成しています)